

個々の可能性を広げる就労の場を提供

障がい者支援

地産地消

障がい者就労支援センター かがやき(社会福祉法人 共生会)

代表者：理事長 原 照代
所在地：徳島県阿波市市場町香美字渡10-1
開所：平成13年4月
職員数：16名
定員数：40名
活動分野：障がいのある方の就労支援(食品加工、農作業、移動販売、軽作業の受託等)

○事業・活動の概要

障がい者の就労機会の提供及び生産活動、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行っている。利用者として登録している障がい者は57名で、月平均48名が利用しており、職員は職業指導員や生活支援員など16名である。作業内容は、弁当・菓子・パンなどの食品加工作業や、農作業、鍵の組立てや包装などの受託作業、移動販売や施設内カフェでの軽食や菓子類の販売などと多岐にわたるため、利用者の個性に合わせた作業を複数選択し、その日の体調や作業量を考慮して、どの作業を担当するかを決めることができる。そのため、利用者は無理なく、継続的に働くことができる。

○地産地消 農業と食品加工

施設から徒歩5分圏内に3ヘクタール分の農園があり、野菜の栽培を行っている。取材時はとうもろこしが最盛期で、夏は、スイカやかぼちゃ、ピーマンやトマトが収穫される。農園で栽培された作物は近隣の学校給食センターや、農産市で販売されている。また栽培された野菜は、施設内で調理されている弁当や総菜、パンや菓子の材料としても使われている。

特に菓子製造に関しては最新の設備が整っており、徹底した衛生管理の下、100種類以上を製造できる。平成30年3月には、徳島県衛生管理認証(県版HACCP認証)事業者として認定された。

菓子の材料には、農園で収穫したほうれん草やかぼちゃ、にんじんなどを乾燥させた粉末を使うなど、できる限り農園で栽培されたものや徳島県産にこだわり、地産地消にも努めている。

○地域との交流

平成29年4月に、施設を増築し「きららカフェ」をオープンさせた。このカフェではカレーやピラフ、ハンバーガーなどの提供と、施設内で製造された菓子の販売をしており、近隣住民など誰でも使用することができる。ここで、利用者(障がい者)は、調理の補助や商品陳列、レジでの接客などの作業や訓練を行っている。さらに、毎月1回、施設で手掛けた野菜や、菓子、総菜などの販売会も施設内で開催している。

また、施設内で製造された弁当や菓子を始め、生鮮食品や日用品などの移動販売も行っており、利用者が個人宅や病院、社会福祉関係の施設などに訪問し、自ら接客することにより、マナーや言葉遣いなどを学んでいる。徳島県及び阿波市と「高齢者等の見守り活動に関する協定」を結び、訪問先の高齢者や障がい者の安否確認も行っている。

同施設では、利用者が地域の人と触れ合うことで、働くことの喜びを得られ、住み慣れた土地で、生き甲斐のある人生を送れるようにサポートすることも目的の一つである。

○課題と取組

利用者の作業工賃の向上のためにも、施設で製造した商品の売上げをどのようにして増やすかが、課題である。

そのため、今までに次のような取組も行ってきた。

障がい福祉事業所が製造する菓子のレベルアップと販路拡大を目指すコンテスト「スイーツ甲子園(兵庫県主催)」に出場し、平成25年に特別賞、平成28年にはグランプリを受賞した。また「彩市場かがやき」として菓子専門のオンラインショップを平成26年にオープンさせた。

厚生労働省が公募した平成28年度障害者の技術向上支援に係るモデル事業では、専門家による講習会を行い、チョコレート菓子を商品化した。専門家にカタログ製作の指導を受けたり、ウェブサイトへの掲載の仕方や販路拡大の方法についても、利用者と職員と一緒に学ぶなどの取組を行った。

その結果、徳島県のふるさと納税返礼品に採用され、有名百貨店のオンラインストアでも取り扱われるようになった。

同施設では、今後も地産地消にこだわった菓子を試作し、良質な商品を開発していきたいと考えている。

公表日：平成30年8月17日 取材：平成30年6月
外部リンク：<http://www.kyousei-tokushima.org/kagayaki/>

